



大志



【学校教育目標】「よく学び、心豊かで、たくましい児童生徒の育成」

文責 浅利 進

なかなか暑さも収まらない9月ですが、少しずつ朝夕の中に秋らしさを感じます。2学期が始まってもう一カ月が過ぎ、大きな行事を終え、いよいよ各学年では来年度に向け動き始めています。気温からはなかなか想像できませんが、あと3カ月で今年は終わりになります。皆さんの今年の目標は達成できそうでしょうか。

第66回瑞穂祭が開催されました！



今年度の生徒会最大行事である学園祭、「第66回瑞穂祭」が9月8日、10日の2日間で開催されました。今年のテーマは「結証～仲間と刻む青春の瞬間～」で、若草中学校の生徒が一丸となって学園祭を成功させようという気持ちがこもったテーマだと感じました。コロナ感染症拡大防止対応が緩和され、4年前と同じ内容で行えることに子どもたちも喜びを感じていたように思います。ただ、今年の夏は猛暑が続き、合唱練習やグラウンドでの練習も大変でした。子どもたちの頑張りには感心するばかりでした。

開祭式・文化の部は桃源文化ホールで行われました。開祭式は、生徒会本部が制作した動画から始まり、生徒会長の開祭宣言、学級旗・全校制作の紹介と取組の成果が披露されるたびに盛り上がる生徒の様子を見て、やっぱり学園祭っていいなあと思ってしまいました。



文化の部の合唱は本当に素晴らしかったです。感染症の対策で、しばらく合唱ができないこともあり、「合唱の伝統」が数年間言葉だけだったにもかかわらず、どの学年も練習以上の合唱が創れていたように思います。練習



では着けていたマスクを外して歌う生徒も多く、自分たちの力を出しきった発表になったと思います。そして、最後の全校合唱「大地讃頌」は本当に鳥肌が広がるほど感動できる大合唱だったと思います。

この歌声こそ若中の伝統にふさわしいと感じ、素晴らしい時間を作ってくれた生徒の皆さんに感謝したいです。参観された、南アルプス市教育委員会の増山希世彦教育長、前校長の河西美代司先生からお褒めの言葉をいただきました。また、今回本校の合唱の講評をしてくださいました、大友昭先生も、若草中生徒の頑張りに大きなエールを送ってくださいました。



2日目の体育の部は昨年より競技種目を増やし、選択種目やブロック種目など、参加形態を工夫しながら行われました。やはり強い日差しの中でしたが、汗びっしょりになって笑顔で参加していました。競技・競争ですから、当然順位や勝ち負けもありましたが、どの学級も結果に関わらず、いい笑顔でした。きっと、結果を超える取組をしてきたという自負と、精一杯競技したという満足感の表れだったと思います。

最後に行われた閉祭式は、生徒会本部がこの行事に向けての思いを全校生徒の前で発表できました。時間も限られ、でも最高の思い出を作りたいというリーダーとしての葛藤の中で、準備や運営に力を尽くしてくれました。本当にお疲れさまでした。体育の部の終了後から閉祭式の間



生徒展示を見学する時間がありました。家庭科部や美術部、パソコン部が工夫を凝らして創作した展示物が整然と並んでいました。クラスでの取組の後、苦労して作っていたと考えると、頑張ったんだなあという思いで気持ち癒されました。もちろん各学年もしっかり展示しており、見ごたえがありました。若草中学校の生徒の皆さん本

当にお疲れさまでした。楽しかったですか？

この学園祭では、平日の文化の部も猛暑の体育の部も多くの保護者の方に参観していただきました。本当にありがとうございました。保護者の皆様のご理解とご協力も、この瑞穂祭を成功させた力となっています。残念ながら学園祭終了後に学年・学級閉鎖でご心配をおかけすることがありましたが、生徒の得た成果は大きかったと思います。今後も子どもたちの笑顔のために、本校の学校教育へのご協力をお願いします。



学園祭で思うこと…。

これまでの学校で学園祭を経験してきて、毎年感じるがあります。子どもたちは本番当日と同じように取り組み期間も楽しんでいただろうか、ということです。閉祭式の中でも少し話しましたが、学園祭当日は本番ですから、合唱でも競技でも1回だけです。うまくいっても失敗してもそれが思い出になってしまいます。もちろんそれが大切なことなのですが、2週間の取組の間は生徒のみなさんはどんな思い出が作れましたか？

ちょっと昔の話ですみませんが（かれこれ33年くらい前ですかね）、私が最初の生徒会顧問の時の学園祭です。当時は3日間の日程に前夜祭（前日の放課後行います）があるというくらい大がかりな取組でした。当時は夜まで準備を行い、生徒も先生もへとへとになる取組でした。当然生徒会本部は、毎日毎日準備のために放課後何時間も準備に追われていました。そして待ちに待った前夜祭当日、一人の本部役員が泣いているのです。それも声を出さないのですがびっくりするくらいの大泣きです。その子は普段から明るくて元気な子でしたから、泣いたことを見たことはありませんでした。思わず「どうした？何か失敗でもしたのか？」と声をかけました。しばらく答えずに少したってから答えた言葉と表情を今でも覚えています。「先生、よく分からないけど涙が止まらないです。」何度も繰り返しリハーサルをした、最初の閉祭式の生徒会本部の発表前に、自分の感情があふれ出たようです。このドラマのワンシーンのような状況で私も思わず涙が出そうになりましたが、励ましながら無事学園祭をスタートすることができました。それから、お祭りは準備のほうが楽しいのではないかと考えるようになりました。皆さんはどうでしょうか。

